



2018年3月期第2四半期決算説明資料
2017年11月

- ・ 2018年3月期第2四半期決算報告 P.3
- ・ 2018年3月期連結業績予想 P.10
- ・ 当社グループの事業案内 P.14
 - エネルギー事業について P.15
 - 生活関連事業について P.20
- ・ 成長戦略 P.27
- ・ 参考資料 P.34

2018年3月期第2四半期決算報告

連結損益計算書

- **売上高** エネルギー事業（石炭販売分野）において石炭価格の上昇及び販売数量の増加などにより増収
- **営業利益** エネルギー事業（石炭生産分野）において石炭価格の上昇などにより増益
- **経常利益**
 - （営業外収益） 受取利息1億4百万円（前年同期比7百万円増）、匿名組合投資利益60百万円 計上
 - （営業外費用） 支払利息92百万円（前年同期比15百万円増）、為替差損18百万円（前年同期比69百万円減）
持分法投資損失（LCS社、GDM社）30百万円（前年同期比11百万円増）
- **親会社株主当期純利益**
 - （特別利益） 補助金収入2億69百万円計上
 - （特別損失） 固定資産圧縮損2億48百万円計上
 - （税金費用） 当期2億5百万円（前年同期比3億22百万円増）計上

（単位：百万円）	2017/3期 2Q	2018/3期 2Q	対前期比 増減額
売上高	22,597	30,301	7,704
営業利益 （のれん償却前営業利益）※	▲675 （▲486）	376 （643）	1,052 （1,129）
経常利益	▲688	473	1,162
親会社株主 四半期純利益	▲503	276	779

※のれん償却前営業利益とは、企業買収によって生じるのれんの償却額を除外して算出される営業利益。

連結セグメント情報

- エネルギー事業 石炭販売分野、石炭生産分野、再生可能エネルギー分野
詳細は、次ページ「エネルギー事業の内訳」に記載
- 生活関連事業 電子部品分野、飲食用資材分野、衣料品分野、施設運営受託分野、介護分野
2017/3期4Qより電子部品分野のクリーンサアフェイス技術(株)を子会社化したことなどにより増収・増益

【売上高】

事業名 (単位:百万円)	2017/3期 2Q	2018/3期 2Q	対前期比較 増減額
エネルギー	14,067	20,139	6,071
生活関連	7,420	9,329	1,909
その他	1,040	781	▲258
調整額	69	50	▲18
合計	22,597	30,301	7,704

【セグメント利益】

事業名 (単位:百万円)	2017/3期 2Q	2018/3期 2Q	対前期比較 増減額
エネルギー (のれん償却前)	▲724 (▲688)	267 (303)	992 (992)
生活関連 (のれん償却前)	534 (688)	591 (822)	57 (134)
その他	54	65	10
調整額	▲540	▲547	▲7
合計 (のれん償却前)	▲675 (▲486)	376 (643)	1,052 (1,129)

※売上高は、セグメント間取引消去前の売上高を表示しております。

※「その他」は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業及び港湾事業等を含んでおります。

※エネルギー事業におけるセグメント利益には持分法投資損益（2017/3期2Q ▲19百万円、2018/3期 ▲30百万円）が含まれております。

※売上高の調整額は、全社資産の賃貸収入等であります。セグメント利益の調整額は、持分法投資損益、各報告セグメントに配分していない全社収益・全社費用等であります。

エネルギー事業の内訳

- 石炭販売分野 売上高：石炭価格の上昇及び販売数量の増加などにより増収
- 石炭生産分野 売上高、利益：販売数量の減少並びに石炭代金決済レート(US\$/A\$)が豪ドル高となったものの、石炭価格の上昇などにより増収・増益

【売上高】 (単位:百万円)	2017/3期 2Q	2018/3期 2Q	対前期比較 増減額	【利益】 (単位:百万円)	2017/3期 2Q	2018/3期 2Q	対前期比較 増減額
石炭販売分野	11,700	18,348	6,648	石炭販売分野	90	78	▲11
販売数量	180万トン	192万トン	12万トン				
石炭生産分野	4,686	6,073	1,386	石炭生産分野	▲927	63	991
販売数量	65万トン	58万トン	▲7万トン	(内、持分法投資損益)	(▲19)	(▲30)	(▲11)
再生可能 エネルギー分野	197	209	11	再生可能 エネルギー分野	113	125	11
調整額	▲2,516	▲4,491	▲1,974	調整額	—	—	—
合計	14,067	20,139	6,071	合計	▲724	267	992

※調整額には分野間での取引高等が含まれております。

主要指標		2017/3期	2Q実績	2018/3期	2Q実績	差額
石炭販売分野 (4~9月決算)	石炭輸入販売平均価格		6,485円		9,521円	3,037円
	為替 円 / US\$ (平均レート)		105.32円		111.10円	円安 5.78円
石炭生産分野 (1~6月決算)	石炭平均価格 一般炭	US\$ 62.00		US\$ 87.24		US\$ 25.24
	石炭平均価格 非微粘結炭	US\$ 68.80		US\$ 155.63		US\$ 86.83
	為替 US\$ / A\$ (平均レート)	US\$ 0.7311		US\$ 0.7608		豪ドル高 US\$ 0.0297
	為替 円 / A\$ (平均レート)		81.76円		84.84円	円安 3.08円

連結貸借対照表①

	2017/3月末		2017/9月末		増減額 (百万円)	主な増減要因
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)		
流動資産	24,726	41.8	26,080	44.6	1,353	現金及び預金+1,171、売上債権+325 棚卸資産▲563
固定資産	34,386	58.2	32,359	55.4	▲2,027	有形固定資産▲622、無形固定資産▲524 長期預金▲913
資産合計	59,113	100.0	58,439	100.0	▲674	
流動負債	11,824	20.0	11,412	19.5	▲411	未払金▲554
固定負債	15,568	26.3	14,979	25.6	▲589	長期借入金▲373、資産除去債務▲93 長期リース債務▲80
負債合計	27,392	46.3	26,392	45.2	▲1,000	
純資産合計	31,721	53.7	32,047	54.8	326	親会社株主四半期純利益+276、為替換算 調整勘定+287、有価証券評価差額+193 支払配当▲522
負債・純資産合計	59,113	100.0	58,439	100.0	▲674	

	2017/3月末	2017/9月末
現金及び預金 (長期預金含む)	15,145	15,403
借入金 (社債含む)	▲14,838	▲14,527
ネット現預金	306	875
《経営指標》		
自己資本比率 (%)	53.6	54.8
D/Eレシオ (倍)	0.56	0.55

貸借対照表②

2017年9月末

流動資産 260億
・現預金 154億
・売上債権 64億
・棚卸資産 15億

固定資産 323億
・有形固定 205億
(建物・機械等) (100億)
(土地) (89億)
(リース) (16億)
・無形固定 78億
(のれん) (67億)
・有価証券 25億

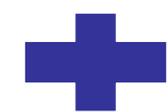
総資産 584億

流動負債 114億
・仕入債務 24億
・短期借入 43億
固定負債 149億
・長期借入 102億
・リース 15億

純資産 320億
自己資本比率 54.8%

負債・純資産 584億

実質無借金



高い自己資本比率
54.8%



強固な
財務基盤

石炭生産
分野
50億

連結キャッシュフロー

(単位:百万円)	2017/3期 2Q	2018/3期 2Q	主な要因
税金等調整前当期純利益	▲615	487	
減価償却費(のれん償却費含む)	1,225	1,498	
運転資金	1,634	326	・棚卸資産の減少等
その他	▲715	▲857	・税金の支払等
営業活動によるCF	1,528	1,454	
固定資産の増減	▲373	▲679	・固定資産取得等による支出等
投資有価証券	228	91	・匿名組合出資金の払戻による収入等
その他	8	▲30	
投資活動によるCF	▲136	▲619	
借入金・社債の増減	248	▲310	
配当金の支払	▲551	▲512	
自己株の取得	▲881	▲0	
その他	▲57	▲93	
財務活動によるCF	▲1,242	▲917	
現金及び預金同等物換算差額	▲967	260	
現金及び現金同等物の増減額	▲817	178	
現金及び現金同等物の期首残高	10,336	12,121	
現金及び現金同等物の期末残高	9,518	12,300	

2018年3月期連結業績予想

2018年3月期 連結業績予想

	2018/3期		
	上期 (実績)	下期 (予想)	通期 10/6開示 (予想)
(単位:億円)			
売上高	303	377	680
営業利益 (のれん償却前営業利益)	4 (6)	8 (10)	12 (17)
経常利益	5	13	18
親会社株主当期純利益	3	9	12

※上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値とは異なる結果になる可能性があります。

今後、業績予想の修正が必要となった場合には、速やかに開示する予定でございます。

豪州リデル炭鉱のストライキについて

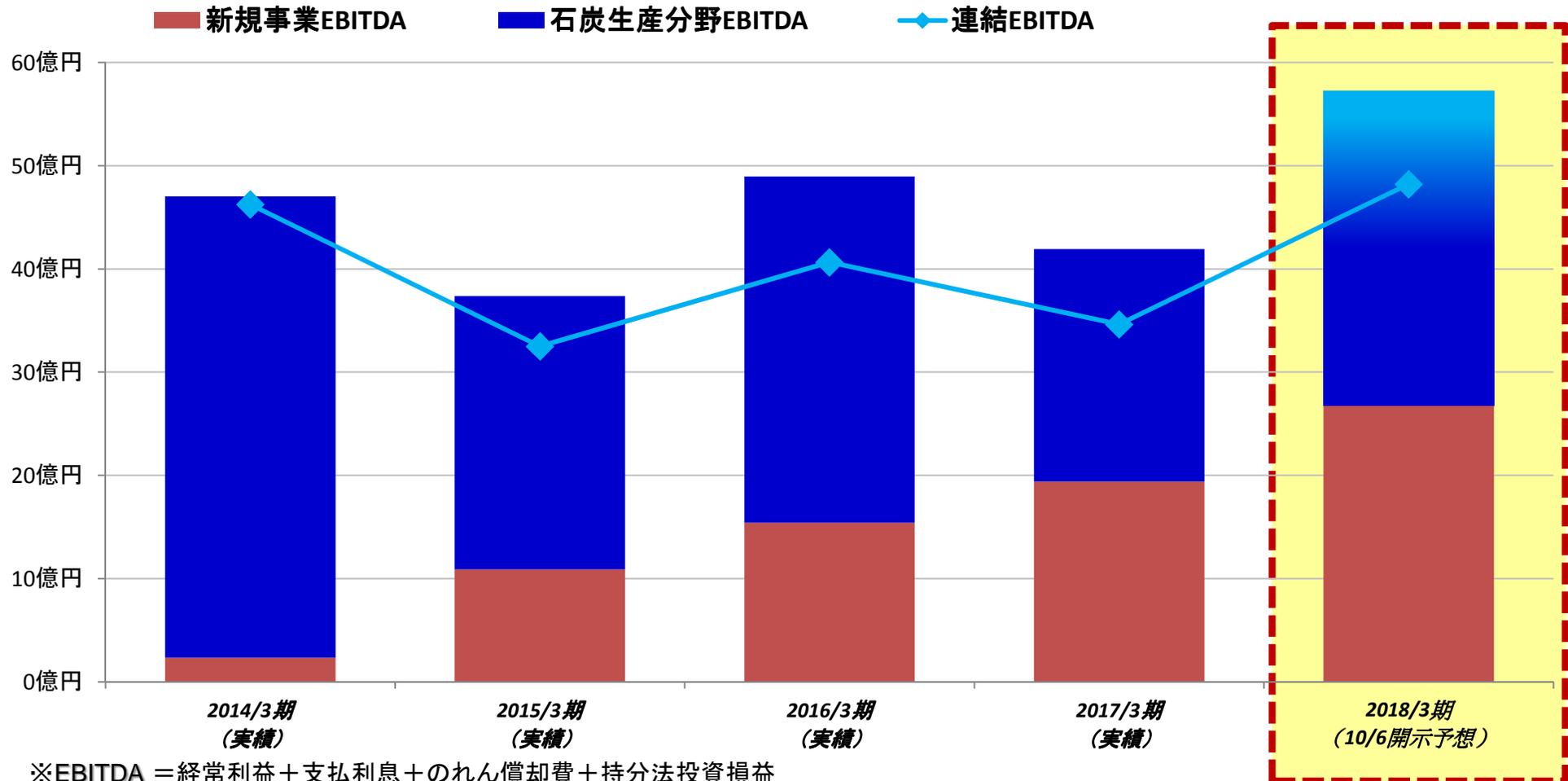
- ◆2017年6月から、豪州リデル炭鉱において断続的にストライキが発生していましたが、この程露天堀労働組合と基本合意に達しましたのでお知らせします。
- ◆最終合意にはもう暫く時間が掛かりますが、露天堀において断続的に発生していましたがストライキは終結の見通しとなり、現在は通常操業に戻っております。



操業風景

平成30年3月期通期の連結業績予想につきましては、平成29年10月6日公表の数値から変更ございません。

EBITDAの推移(連結、石炭生産分野、新規事業)



※EBITDA = 経常利益 + 支払利息 + のれん償却費 + 持分法投資損益

※新規事業 = 生活関連事業(電子部品分野、飲食用資材分野、衣料品分野、施設運営受託分野、介護分野)、再生可能エネルギー分野

■ 豪州リデル炭鉱におけるストライキの影響により石炭生産分野のEBITDAは低下するものの、近年進めている新規事業の成果は着実に業績に反映されており、連結EBITDAに占める割合はここ数年で増加し続けている

当社グループの事業案内

エネルギー事業について

石炭生産分野

- 事業内容：主にリデル炭鉱での石炭生産および販売
- 利益構造：リデルジョイントベンチャーの利益**32.5%**を比例連結で取込む



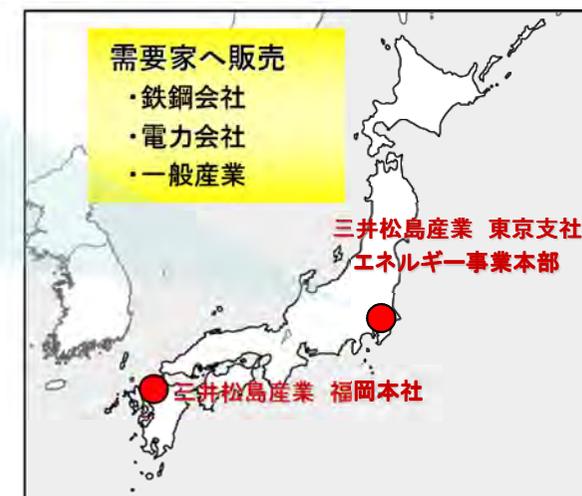
需要家のニーズを分析
開発・操業へ伝達



新しい石炭ビジネスに関する
様々な情報提供および企画提案

石炭販売分野

- 事業内容：三井松島産業 エネルギー事業本部における国内需要家への石炭販売
- 利益構造：取扱数量に応じたコミッションを収益とする。従って、石炭価格の変動は売上高には大きく影響を及ぼすものの、利益へのインパクトは大きくない。



稼働中 豪州 リデル炭鉱

- 運営形態：三井松島オーストラリア社32.5%、Glencore社67.5%のジョイントベンチャー
- 埋蔵量：7.0億t
確定資源量170百万t、推定資源量180百万t、予想資源量350百万t、
可採埋蔵量 37百万t
- 生産能力：750万t/年(選炭工場最大処理能力)



リデル探鉱

開発中 インドネシアGDM炭鉱

- ◆ 当社グループが有する坑内掘り技術のノウハウをGDM社へ提供。

同国では初の大規模な機械化採炭方式による坑内掘り炭鉱を開発中。

⇒将来的には権益炭約30万トン

(当社グループはGDM社の株式30%保有)



GDM坑道

探査中 豪州Mimosa鉱区

- ◆ Squareグループとイースタンコールジョイントベンチャーを通じて共同で探査事業を展開。
- ◆ 豪州クイーンランド州のMimosa鉱区で実施した試錐探査において**有望な炭層を発見**。
- ◆ JOGMECと石炭開発における共同探鉱契約を締結。当社の技術に加えJOGMECの有する探鉱における知見・ノウハウを活用し、競争力ある炭鉱開発を推進。



Square Exploration社による探査

石炭関連エンジニアリング分野 再生可能エネルギー分野

石炭関連エンジニアリング分野

MM Nagata Coal Tech株式会社

- ◆ **炭鉱の開発・操業技術と石炭の選炭技術**のノウハウを併せもったエンジニアリング会社。
 - ・90年近くにわたる国内坑内掘り炭鉱の操業経験や海外での炭鉱開発プロジェクト経験にて培った炭鉱技術力。
 - ・国内で唯一の「石炭の選別技術」。



再生可能エネルギー分野

MMエナジー株式会社



つやざき発電所全景

- ◆ 福岡県福津市内にある当社社有地を利用して**6MWの太陽光発電所「メガソーラーつやざき発電所」**を運営。年間発電量は、一般家庭約2,000世帯分の年間消費電力に相当。
- ◆ 2016年7月から更にパネルを増設、効率的な発電を実施している。

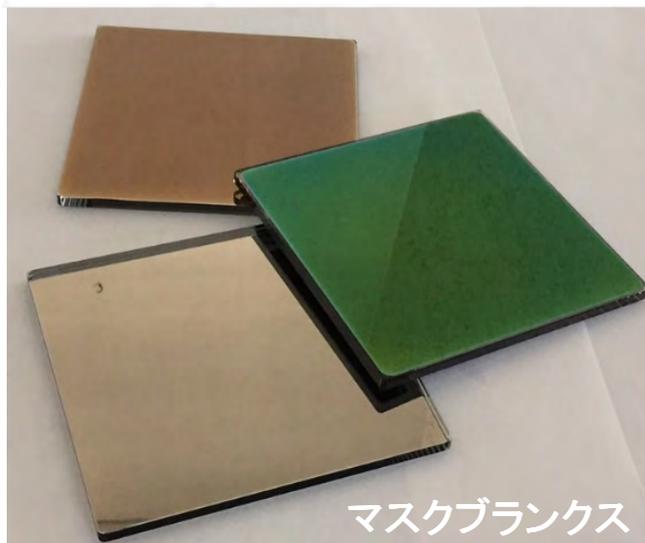
生活関連事業について



電子部品分野

クリーンサアフェイス技術株式会社

- ◆ 昭和52年(1977年)に**国内初のマスクブランクス※**専門メーカーとして創業。
- ◆ 液晶パネル(LCD)や半導体に用いられる**フォトマスク※**の原料である**成膜加工したマスクブランクス**を国内外の有力フォトマスクメーカーに販売しており、**優良な顧客基盤を保有**。



マスクブランクス



本社工場



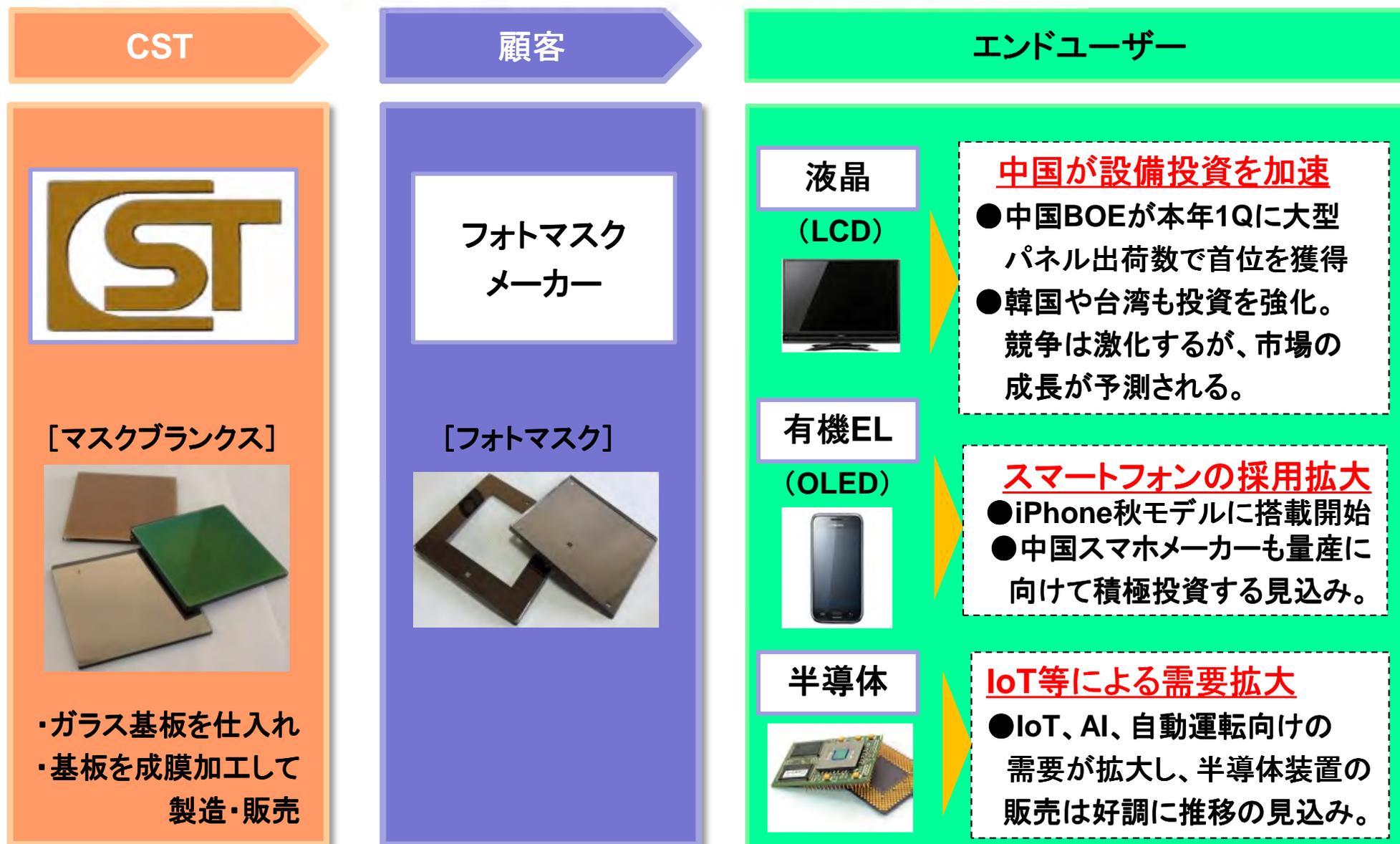
江刺工場

CST = Clean Surface Technology
(きれいな 表面 技術)

“ガラス基板に、金属の膜を貼り付け
鏡面のような表面にする
世界トップレベルの会社”

***マスクブランクスとは?** : 薄型テレビの画面や半導体の複雑な電子回路の製造に必要な「フォトマスク」の材料として活用され、高精度に研磨されたガラス基板の表面に、真空装置の中でクロム等の薄い金属を成膜したもの

***フォトマスクとは?** : 半導体、液晶ディスプレイなどを製造するときに使用されるツールで、「マスクブランクス」に回路パターンが描きこまれた(転写された)もの



● 今後もエンドユーザーである液晶、有機EL、半導体市場の着実な成長が見込まれる
⇒CST社の顧客、及び波及的にCST社の安定的な成長につながると期待

飲食用資材分野

日本ストロー株式会社



- ◆ 昭和58年(1983年)伸縮ストロー開発。以来、業界の先駆者として独自の技術・ノウハウを蓄積し、**ストローの国内リーディングカンパニー**としての地位を確立。
国内伸縮ストローの市場で圧倒的な市場シェア(約65%・当社調べ)。
- ◆ 優良顧客(大手乳業・飲料メーカー等)からの高い信頼と評価による**安定的な取引基盤**を構築し、**堅調な業績**を達成。
- ◆ 様々な種類の高性能製品を製造、顧客の要望に応える。



伸縮ストロー



シングルストロー

- **コンビニコーヒー・デザート飲料用ストロー**などの需要拡大、及び**フードウェア商品**(飲料用紙カップ、食品用容器等)の新規開発等により売上増加を見込む。
- 消費者へ**安心・安全・便利、高品質なストロー**を提供するために、**人と環境にやさしい製品づくり**に取り組んでいる。



紙カップ

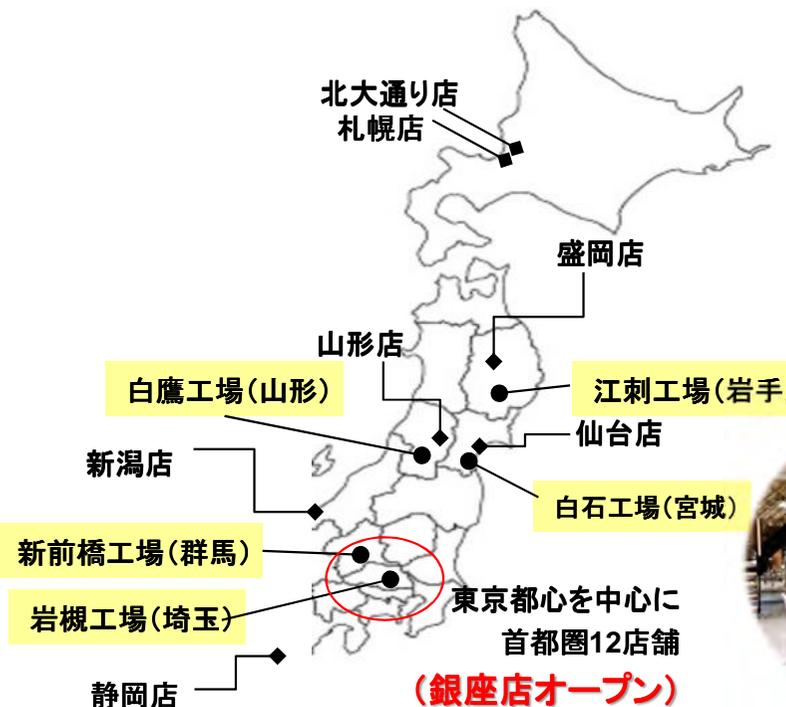
衣料品分野

花菱縫製株式会社



HANABISHI
THE TAILOR OF JAPAN SINCE 1935

- ◆ 昭和10年(1935年)創業、「**オーダースーツ**」の先駆者として、商品開発から生産・販売までの**国内一貫体制**による事業を展開。
- ◆ 大手百貨店や多くの消費者から高い評価を得、**確固たる取引基盤**を有し、安定した業績で推移している。
- ◆ 顧客の要望に応じてカスタマイズするオーダースーツの強みを生かし、**車椅子利用者向け商品**を開発。今後も**オーダースーツの楽しさ**をあらゆる人に伝え、更なる成長を目指す。



- 平成29年3月に19店舗目となる**HANABISHI 銀座店**をオープン。新規顧客、女性用オーダースーツの受注も順調。
- 株主優待制度の長期保有特典として、**花菱縫製(株)オーダー商品お仕立てギフト券(5,000円分)**を提供。



銀座店

注) 毎年3月末の株主名簿に記録された当社株式10単位(1,000株)以上保有及び保有継続期間が3年以上の株主様が対象

施設運営受託分野

株式会社エムアンドエムサービス



- ◆ お客様の心に残る**高品質なサービスと長い経験から学んだ独自の運営ノウハウ**で、日本各地の民間企業・地方公共団体が保有する保養所・研修所・その他施設の運営受託事業を展開。
- ◆ 今後は**九州地区を含め**運営受託事業の全国展開を推進

<直営施設>

けぶり かわ
里山の休日 **京都・烟河**



里 樹 人
熊野倶楽部
Resort-KUMANO CLUB



1000Mのおもてなし
八ヶ岳ホテル 風か
Yatsugatake Hotel FUKA



- 平成29年6月に(株)港倶楽部保存会より三井松島産業(株)が所有権を取得した**大牟田市の歴史遺産『旧三井港倶楽部』**の運営を開始。レストランや結婚式場などの事業運営を行っている。
- 株主優待制度として、**(株)エムアンドエムサービス施設宿泊割引券(3,000円分)**を提供。対象は九州・近畿・中部・関東地方の全17施設。

注) 毎年3月末の株主名簿に記録された当社株主名簿に記録された当社株式1单元(100株)以上保有の株主様が対象



旧三井港倶楽部

介護分野

MMライフサポート株式会社

- ◆ 福岡市早良区の都心に近い恵まれた立地に、介護と医療が連携した“安心して暮らせるサービス付き高齢者向け住宅”2棟を運営。(パインガーデン藤崎・パインガーデン室見)
- ◆ 「**親を住ませたい。将来自分たちも暮らしてみたい。**」を運営コンセプトに、超高齢社会のニーズを先取り、ご利用者様に寄り添う介護事業(居宅介護支援・訪問介護・デイサービス)を展開。

パインガーデン 藤崎



パインガーデン 室見



- 利用者様の介護度を下げる取組みを実施し、**明るく元気な生活を送れる施策**に力を入れる。
- 更なるサービスの向上を通じて**豊かな活気ある社会づくり**に積極的に取組んでいく。

成長戦略

成長戦略

◆強固な財務基盤を背景に積極的な投資活動を展開する

- ① 石炭生産分野への継続的な取り組み
- ② 新規事業の横展開、M&Aを含めた新規案件への投資

安定的な事業ポートフォリオの構築・拡大による持続的な成長・発展

石炭の種類

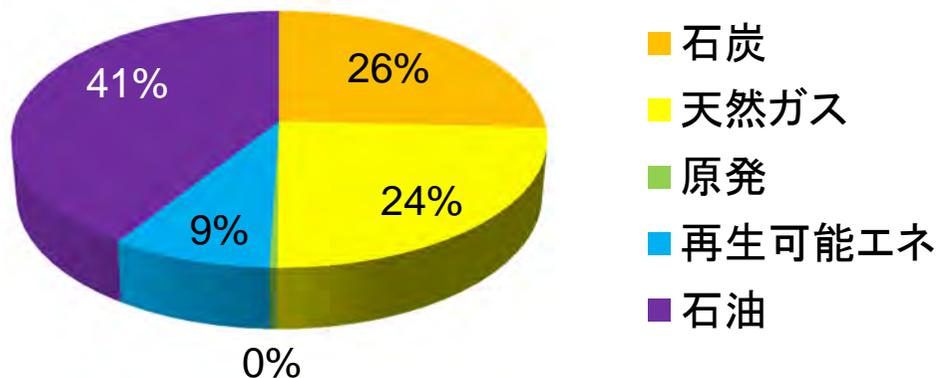
- ◆ 一般炭 ……化石燃料の中でも地政学リスクが最も低く、熱量当たりの単価も最も安い、
世界の発電の約40%をまかなう主要なエネルギー資源。
- ◆ 原料炭 ……インフラ構築に欠かせない**鉄鋼製品の原料となる資源。**



国内需要

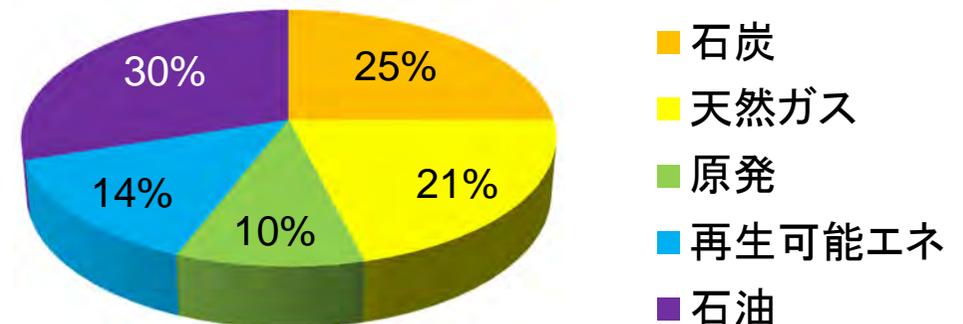
石炭は現在一次エネルギーの約25%を占めており、経済産業省によると、環境負荷を低減しつつ今後も安定性・経済性に優れたベースロード電源として利用され、2030年度の日本の一次エネルギー構成も現在と同様の25%を占める重要なエネルギー源として位置付けられている。

2015年一次エネルギー構成



(出所):平成29年4月 資源エネルギー庁
「2015年度における エネルギー需給実績」

2030年一次エネルギー構成



(出所):平成27年7月 経済産業省
「長期エネルギー供給見通し」

稼働中

豪州リデル炭鉱

操業中の炭鉱運営



高品質の一般炭及び原料炭が生産されており、主に日本向けに出荷されている。効率のよい採炭計画の立案、重機の稼働率向上、操業コストの低減により更なる収益性の向上に取り組んでいる。

現在の州政府から許認可を得ている採掘エリアは、5～6年ほどで終掘予定。現在、鉱区の新規エリアでの開発を検討しており、現採掘エリアの終掘前には生産を開始する予定である。

開発中

インドネシアGDM炭鉱

新規炭鉱プロジェクト



2017年から露天掘りによる商業生産再開。坑内掘りについては現在開発中であり、2018年に出炭する計画。

将来的には年産約30万トン(当社持分)が見込まれる。

探査中

豪州Mimosa鉱区

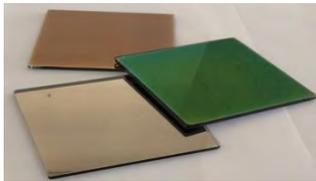
プロジェクト探査段階からの参画

2015年豪州クイーンズランド州に有望な炭層を発見、約1億5千4百万トンの埋蔵量(一般炭)が予想される。現在、JOGMECの参画を得て、継続して探査を実施中。

クリーンサアフェイス技術

世界有数のマスクブランクスメーカー

液晶パネル・有機ELディスプレイ用のマスクブランクスにおいて優位的地位を確立。



同分野は世界的な市場拡大が見込まれ、更なる成長が期待。

日本ストロー

「ストロー」のリーディングカンパニー

国内伸縮ストローの市場で圧倒的な市場シェア（約65%、当社調べ）を獲得。



今後は、製品開発による国内の新たな需要拡大等を推進。

花菱縫製

「オーダースーツ」の先駆者

平成29年3月に銀座店オープン。

今後は、西日本地区への進出、障がい者対応



スーツの開発、婦人服の需要増加等、更なる成長を目指す。

エムアンドエムサービス

長い経験から学んだ独自の運営ノウハウ

日本各地で、高品質なサービス・効率運営を一体とした運営受託事業を展開。



九州地区を含めて全国展開を推進。

- ✓ 国内ニッチトップ企業
- ✓ ハンズオン経営による着実な利益成長

近年の新規事業のEBITDA推移※

エムアンドエムサービス



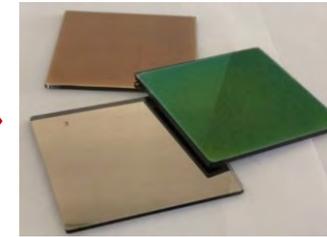
日本ストロー



花菱縫製



クリーンサアフェイス技術



新規案件
投資

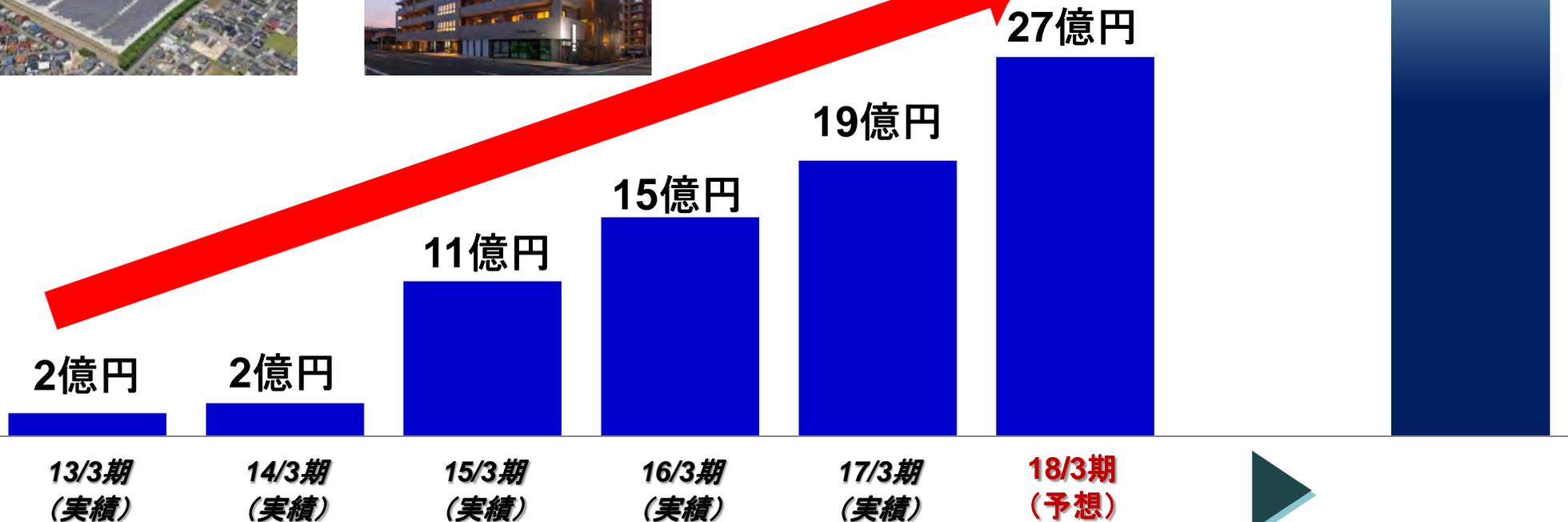
MMエナジー



MMライフサポート



着実に実行し
業績に反映



※EBITDA＝経常利益＋支払利息＋減価償却費＋のれん償却費

123億円

投資収益率※ 20%

高い投資リターン

投資金額

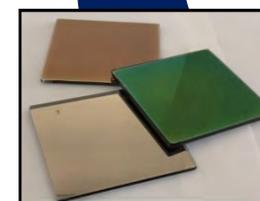
(株式+純有利子負債)

15億円

38億円



24億円



累計投資額

年間EBITDA
(18/3期予想)

47億円

23億円

投資の目利き力をもって、着実な投資を継続することにより、三井松島産業グループの長期・安定的な成長を目指します。

※投資収益率=年間EBITDA÷累計投資額。

事業のために投じた資本からどれだけの利回りで収益(EBITDA)を生み出しているかを示す。

参考資料

石炭マーケット状況

■ 「global COAL」 INDEX オーストラリア ニューキャッスル港積 標準品位一般炭指標の推移

(US\$/Mt)

※global COAL・・・石炭関連電子商品取引所



		2015年				2016年				2017年			
		1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
原料炭※	強粘結炭	117.00	109.50	93.00	89.00	81.00	84.00	92.50	200.00	285.00	194.00	92.50	未定
	非微粘結炭	86.00	81.00	74.00	71.00	66.00	70.00	74.00	130.00	171.00	126.00	126.00	未定
一般炭	4月契約	81.80	67.80				61.60				84.97		
	10月契約	73.45			64.60				94.75			94.75	
為替	US\$/A\$	US\$ 0.76				US\$ 0.74				US\$ 0.75			
	円/A\$	91.1円				80.7円				82.5円			

※2017年4月から原料炭価格はスポット連動方式へ移行

本資料の将来の業績に関わる記述等については、将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境に関する前提条件の変化等に伴い、変化する可能性があることにご留意下さい。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行なってください。また本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切の責任を負いません。

＜IR問い合わせ先＞ 総務部・経営企画部 TEL 092-771-2171